

秋田県立博物館ニュース



表紙写真 特別展「あきた大鉄道展」から



平成25年7月6日(土)～10月20日(日)

特別展 あきた大鉄道展

展示期間

前期 7月6日 → 8月25日
(小特集: 機関車・電車のものがたり)

後期 9月10日 → 10月20日
(小特集: ふるさとの駅舎)

乗車賃 一般500円 高校・大学生300円 小・中学生100円

前期開催では
2万人の方に
ご覧いただきました



「あきた大鉄道展」とは？

鉄道資料を秋田の近現代史を証言する歴史資料としてとらえ直し、鉄道史の視点から秋田県発展の歴史を示した展示です。展示にあたり、JR東日本秋田支社ほか秋田県内の公共交通機関各社、鉄道友の会秋田支部、そして多くの鉄道ファンの方から御協力いただきました。

展示資料は、明治時代のものから、今年3月デビューのE6系「スーパーこまち号」関連資料に至る約600点を集めました。

「あきた大鉄道展」の魅力を紹介します



「あきた大鉄道展」観覧者へうれしいプレゼントのお知らせ

① 9種類の鉄道カード

E6系「スーパーこまち号」から試験車両「ファスティック」まで充実のラインナップ。さらに、裏面は懐かしいSLの写真が…

② チャレンジしようスタンプラリー

北秋田市阿仁異人館・伝承館、秋田内陸縦貫鉄道内陸線資料館、県立図書館、仁別森林博物館、大仙市くらしの歴史館、美郷町学友館、横手市雄物川郷土資料館博物館の他に上記施設から2つ、合計3つスタンプを集めた方には素敵なプレゼントが…

③ JRを利用して御来館くださった方に

「スーパーこまち」号鉛筆と定規セットのちょこっとプレゼントがもらえます。

「あきた大鉄道展」後期展示は？



▲大館駅前（昭和32年）



▲秋田駅前（昭和32年）



▲サーカスの象が歩く秋操駅



▲ツッパリが歩く矢島線の駅

小特集「ふるさとの駅舎」

秋田県内の駅の懐かしい写真を展示。人と鉄道が織りなす様々なドラマをお楽しみください。
(歴史部門：畑中 康博)

平成25年4月27日(土)～6月16日(日)



大日如来坐像（個人蔵）

頂上に大物忌神社が鎮座する鳥海山は、古くから人びとの崇敬を集めた山で、山岳信仰の歴史を物語る貴重な存在です。平成20年から21年にかけて、その神社境内等の地が国の史跡に指定されました。

本展では鳥海山信仰にまつわる仏像、法具、文書、絵図、鳥海山を描いた絵画などを展示しました。広大な山麓に点在する関連資料を一堂に会してみると、鳥海山がいかにも多くの人びとの多様な信仰をつむいできたか、その信仰の裾野の広さ、奥深さを改めて実感しました。

山岳信仰やそれを支える修験道は、明治政府の神仏分離政策や社会の変化で大きな打撃を受け、往事の信仰の姿を想像するのは難しくなりつつあります。その間にどれほど多くの仏像が散佚したか分かりません。にもかかわらず、現在でも山麓一帯に多くの宗教遺物が守り伝えられていることは、まことに貴重と言わねばなりません。

会期中には、由利本荘市、にかほ市、山形県遊佐町などから、団体で観覧にお出で頂きました。企画に携わった者としても、地元の方に喜んで頂けることが何よりの幸せです。地域の博物館として、地域の宝を、地域の方々に見て頂けるよう、今後も務めていきたいと思ひます。

（歴史部門：新堀 道生）



十二神将のうち午神像（森子大物忌神社蔵）

開催中

平成25年9月14日(土)～11月10日(日)

企画コーナー展 (秋田の先覚記念室)

飛行詩人・佐藤章へ秋田初の民間飛行士へ

人類が初めて動力飛行に成功したのは110年前、明治36年(1903)12月17日のことでした。アメリカのライト兄弟によって、ついに人類の夢が実現したのです。7年後の明治43年(1910)には日本人による初飛行が行われています。この間、飛行機に関する技術が急速に発達したとはいえ、現在に比べると大変未熟なものであり、飛行士という職業はまさに命がけでした。

美郷町出身の佐藤章(さとうあきら 1894～1921)は、そんな黎明期の日本航空界において、秋田県出身者で初めて民間飛行士として活躍した人物です。しかし、優れた業績を残しながらも、大正10年(1921)11月3日、若くして悲劇の墜落死をむかえます。その短くも起伏に富んだ生涯を、当時の遺品資料を交えて紹介しています。

展示では、佐藤章の遺品資料を通してその人となりや業績に触れるだけでなく、当時の人々が飛行機や飛行士に寄せた熱い思いを感じていただければと考えております。

(秋田の先覚記念室：今川 拓)



愛機アキラ号と
「佐藤章氏高級飛行 記念絵葉書」より

展示報告

平成25年7月6日(土)～8月25日(日)

企画コーナー展 (菅江真澄資料センター)

真澄片手に男鹿半島へ

男鹿半島は、真澄の足跡がぎっしり詰まった地域です。真澄の記録を観光に生かす取り組みはこれまで何度か試みられてきましたが、近年はジオパーク構想の中で、真澄の足跡が取りあげられることがあります。真澄の「男鹿五風」(男鹿に関する五冊の著作)をひもときながら男鹿半島をめぐるいただきたいと考え、「真澄片手に男鹿半島へ」と、当センターとしては平成8年の開設以来初めて柔らかなタイトルを付けてみました。

展示では、真澄を参考にした男鹿行の嚆矢となった狩野徳蔵の『雄鹿名勝誌』、男鹿五風を広く紹介することになった柳田国男の「をがさべり」から紹介をはじめました。真澄の記述では、「八房の梅」の後継樹を育てている方から、実際の梅のなり方の写真を提供していただきました。

男鹿半島についてはこれまで何度も展示で紹介していますが、角度を変えてみることで、新たな解釈の広がりを実感することができました。解説資料、男鹿半島「菅江真澄の道」標柱の地図、真澄クイズ20問(いずれも館内印刷)を、解釈の一助としていただくために発行しました。

(菅江真澄資料センター：松山 修)



展示風景

資料閲覧用アプリ「秋田県博HD」公開中

秋田県立博物館で平成24年度に実施したデジタルアーカイビング&アプリケーション開発促進事業の成果として、当館の所蔵資料の高精細な画像を閲覧できるアプリを公開しました。

「民俗」「考古」「歴史」「工芸」「生物」「地質」「先覚」「菅江真澄」の8つのカテゴリーに分けられた高精細な画像は、スマートフォンとタブレット端末用の専用アプリで閲覧できます。画像のほか、資料に関する情報と解説文も表示させることができます。

専用アプリでは画像をタッチ操作で自由にスクロール、拡大・縮小して、作品の魅力をすみずみまで楽しむことができます。一部の絵巻では、巻頭から巻末まで連続した画像を掲載しており、スクロールしながら絵巻本来の楽しみ方を体験できるようになっています。また立体の一部の資料は、複数のカットを掲載しており、様々な角度から様子を見ることができるようになっています。

現在の掲載資料は100点ほどですが、順次追加する予定です。 (展示・資料班：鈴木 秀一)

アプリの利用方法

・iOS版

App STOREで「秋田県博HD」で検索し、インストールしてください。

・Android版

Google Playで「秋田県博HD」で検索し、インストールしてください。



App STORE



Google Play

アプリの操作方法



カテゴリー選択画面

見たいカテゴリーを選びます。



一覧表示画面

見たい資料を選択します。



詳細表示画像

詳細な画像と解説文などを見ることができます。画像は国の登録記念物に指定されたクニマス標本です。



※アプリのダウンロード・利用には費用は発生しません。

但し、アプリのダウンロード・利用時にパケット通信料が発生する場合は、利用者のご負担となります。

ワラ細工の技術調査から

雪国そして米どころである秋田では、人びとは古くからワラを生活の中で上手に活用し、様々なワラ細工を生み出してきました。しかし、近頃ではワラ細工を作っている人を見かけることはきわめて少なくなっていまい、このまま技術が消滅してしまうのではと懸念されるところです。そこで、当館の工芸部門では、県内のワラ細工技術について現在調査を進めています。ワラ細工と言っていってもワラジ、ミノ、ゴザなど種類は様々でその数はあまりにも膨大です。したがってこの調査では、まずは履物類を中心に、実際に製作された資料からその技術を探ることから始めています。

これまでの調査では、県南地区、男鹿南秋地区の資料館を中心に約450点の履物について撮影や技術の確認等を行いました。その中から1点ご紹介します。男鹿市の若美ふるさと資料館に展示されているもので、資料名には「アグドボッチ付藁ぐつ」とあります。一般にワラグツと呼ばれることの多い履物にアグドボッチと称する踵部分かかとが編み込まれたもので、藁自体が比較的新しいことから恐らくは展示用に製作されたものではないかと思われます。これまでの調査からワラ細工の履物は、編み方や形状でいくつかの型に分類できると考えていましたが、これはそのいずれにも当てはまらない独特のスタイルです。資料の中には製作者が基本的な技術をベースにオリジナルの工夫を施したと思われるものも少なくありませんが、これにはそれとは違った「何かもっと意味があつてのつくり」のようなものを感じます。

追調査の手がかりとなったのは『井川町史』でした。昭和30年代までのワラ細工の一種として「シカケワラグツ」という履物があったとされ、「カタグツ（潟沓）」とも呼び、踵を包むように編んだわら製のアグドボッチをワラグツに

取りつけたもので、主に漁師が氷下漁業の際に氷上で用いる…」と記されています。これだと直感したものの、これまでワラグツと表示された資料にいくつか別種の形状を見てきたこともあり、文章表記だけでは断定することができません。どうしても画像で、形として確かめたいくなります。まずは氷下漁業の写真や動画をいくつか見つけましたが、いずれもすでにゴム長靴で作業をしています。それならばと勝平得之の『氷下漁業』、福田豊四郎の『八郎湖凍漁』、菅江真澄の『氷魚ひょおの村君』というように氷下漁業が描かれた作品も見ましたが、残念ながらこの履物を確認することはできませんでした。

今後も調査は続きますが、たとえこのまま画像に出会うことができないとしてもこの履物を知る人からの聞き取り調査など何らかの方法によりシカケワラグツと断定することができるならば、若美に残されているこの資料と技術は、「人から人への伝承により、使用していた当時の姿を目にすることができる貴重なもの」となるのではと期待しています。

(工芸部門：藤原 尚彦)



「アグドボッチ付藁ぐつ」男鹿市若美ふるさと資料館所蔵

博物館歳時記

秋田県立博物館公式ホームページでは、「歳時記」として、博物館や小泉湯公園の出来事やようすを随時紹介しています。詳しい内容とコメントはホームページを御覧ください。本頁の日付は実施日、() 内の日付は掲載日を表しています。

展示



企画展「霊峰鳥海に祈る人びと」
(4月29日)



人文可変展示・歴史
「記録に残る秋田の地震」
(5月21日)



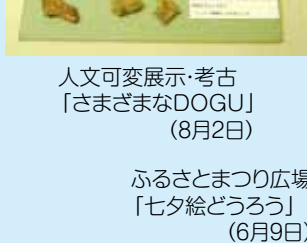
人文可変展示・考古
「さまざまなDOGU」
(8月2日)



自然可変展示「ほ乳類の仲間」
でのミュージアムトーク(4月7日)



特別展
「あきた大鉄道展」(前期)の
Nゲージ模型レイアウト(7月7日)



ふるさとまつり広場
「七夕絵どうろう」
(6月9日)



カメラ スケッチ (小泉湯公園)



ウメの木でひと休みのオオルリ
(5月9日)



8月7日、特別展「あきた大鉄道展」
観覧1万人目記念セレモニー

イベント など



菖蒲園・藤棚(6月1日)



セミの抜け殻(8月10日)



わくわくイベント「ミッションをクリア
してお宝をゲットせよ!!」(6月1日)



5月24日、消火訓練
(分館旧奈良家住宅での放水訓練)

博物館教室・講習会



5月11日、歴史学・考古学入門講座
(3回連続講座のうちの第1回)



5月17日、新野直吉名誉館長館話
(前期全6回のうちの第1回)



7月27日、魚の体内を調べよう



7月7日、秋田大学・博物館見学実習
(拓本実技)